

ノウフク・アワード2026 審査基準（着眼例付き）

農福連携等応援コンソーシアムのアイデンティティを「耕すみんなを応援する」とし、これに連動させ、ノウフク・アワード2026では「人を耕す」、「地域を耕す」、「未来を耕す」という3つのキーワードを評価軸に設定し、多様な視点・切り口から評価を行い、40点満点で評価を行う。

3つのキーワードの視点

「人を耕す」 = 農福連携等を推進する多様な当事者に光が当たる取組になっているか

「地域を耕す」 = 地域農林水産業に積極的に関与し、持続可能な地域社会のあり方を発信できるような取組となっているか

「未来を耕す」 = 農福連携等の新しい価値、物語を発掘し、波及効果があり、未来や絆を広げる取組となっているか等

評価軸	評価の視点	着眼例
人を耕す (最大10点)	工賃・賃金が向上しているか	<ul style="list-style-type: none"> ○障害者等1名あたりの月平均賃金が過去5年で増加している ○障害者等1名あたりの月平均工賃が当該都道府県の平均以上となっている ○請負報酬の支払額が過去5年で増加している（1名あたりの賃金・工賃の算出が困難な場合） ○年間を通じた農作業の創出に向けた支援等、障害者等の賃金・工賃向上に向けた取組を行っている
	働きやすさ等に配慮した環境整備がされているか	<ul style="list-style-type: none"> ○障害者等に対して能力や適性に応じた作業選定等が行われている ○障害者等の働きやすさや作業のしやすさに配慮した環境の整備・工夫等を行っている ○農作業等の安全管理や健康管理が適切に行われている
	障害者等の自信や生きがいづくりにつながっているか	<ul style="list-style-type: none"> ○障害者等が社会参画を図り、自己決定に基づいて、地域において主体的な生活を営むことができている ○障害者等が管理者や責任者等にステップアップしている事例がみられる ○障害者等が一般就労へとつながった事例がみられる ○障害者等の精神面や体力面で良い効果を及ぼしている ○農作業等による障害者等の居場所づくりなどによって、地域で暮らす障害者等の生きづらさの解消につながっている ○農林水産物等の生産や、これにより対価を得ることで責任感が生まれ、生きがいへとつながっている
	地域や職場内にも良い影響が及ぼされているか	<ul style="list-style-type: none"> ○障害者等の活躍や多様な人々の参画を通じて、地域や職場における理解が深まり、立場の違いを超えて互いを認め合い、助け合う環境が創出されている

評価軸	評価の視点	着眼例
地域を耕す (最大10点)	持続的な農林水産業経営につながる取組を行っているか	<ul style="list-style-type: none"> ○農林水産業経営の安定に貢献している ○生産性向上、新たな作物の作付、規模拡大、収益の増加につながっている ○農林水産業の労働力不足の解消等が図られている
	地域の農林水産業の維持・発展に貢献する取組を行っているか	<ul style="list-style-type: none"> ○農福連携等の取組により、地域農林水産業の維持・発展に貢献し、活気を与えている (例：農地集積、地域の農地・伝統野菜・農業技術等の継承、荒廃農地等の活用、地域共同活動、廃棄されていた農林水産物の利用等)
	多様な人材の参画と活躍の創出に寄与しているか	<ul style="list-style-type: none"> ○障害者等が農作業、生産、加工、販売等に継続的に参画し、地域における働く場の創出につながっている ○農福連携等の取組を通じて、多様な人材が地域の担い手として活躍している (例：農作業への参画、生産物の販売・提供、就労機会の拡大等)
	地域内外を巻き込む交流・連携によって地域活性化につながっているか	<ul style="list-style-type: none"> ○地域コミュニティの維持・発展に寄与している (例：地域行事への参加、農作業・収穫体験、見学会等) ○地域外との交流や関係人口の創出につながっている (例：直売所・飲食施設の運営、イベントの実施、体験プログラム等) ○地域の企業、福祉事業所、JA、自治体等との連携し、様々な主体が参画した取組となっている ○障害者等への理解につながっている (例：勉強会、視察、ワークショップ等) ○受入れ農家・関係事業者等が増加している

評価軸	評価の視点	着眼例
未来を耕す (最大10点)	若者等、未来の担い手の育成につながる取組を行っているか	<ul style="list-style-type: none"> ○これから農業を開始する者や教育機関の関係者等に対する農福連携等の理解促進を行っている ○障害児者が農業を通じて地域社会に触れ合う機会を創出している (例：特別支援学校の生徒の就労実績、特別支援学校等の現場実習受入れ、特別支援学校や農業高校、農業大学校、矯正施設等との連携等)
	多様な主体と連携し、持続的に取り組むためのガバナンスが確立されているか	<ul style="list-style-type: none"> ○異業種連携等、幅広い分野や主体とのつながりを生むことで、新しい農福連携等の形が形成されている ○持続可能な地域共生社会や多様性のある地域づくりに貢献しており、これからの日本社会に必要な農福連携等の形が発信できている (例：地域協議会との連携、規約等により継続的に活動を行うための体制づくり等)

評価軸	評価の視点	着眼例
	団体等の強みを活かした発展的な取組を行っているか	○先進性、独創性、話題性がある取組を行っている (例：スマート農業、メディアへの情報発信等) ○農福連携等の取組によって生産された商品の付加価値向上を図っている、または農福連携等の取組を通じて、地域農林水産業の未来に明るい兆しが見えている (例：環境等に配慮した持続可能な農業、高収益作物への転換、ノウフク JAS や GAP 等の認証取得、6次産業化を通じたブランド化、環境等に配慮した持続可能な農業の推進等)
	世代や障害の有無を超えて社会的課題の解決につながる取組を行っているか	○世代や障害の有無を超えた多様な者を対象として農業体験活動を通じた交流・参画の場を提供するとともに、農業体験活動を通じて多様な社会的課題の解決につながる場の創出に貢献している (例：ユニバーサル農園等)
	社会的に支援が必要な者の農福連携等への参画の推進を行っているか	○農福連携等の取組を通じて、障害者のみならず、高齢者、生活困窮者、ひきこもりの状態にある者、犯罪をした者等の地域で働きづらさや生きづらさを感じている者の参画推進に取り組んでいる
	林業や水産業の維持発展に貢献する取組を行っているか	○林福連携または水福連携の取組、または取組拡大に向けた活動を行っており、地域農林水産業の維持発展に貢献している

+

評価軸	評価の視点	着眼例
審査委員 特別加点 (最大10点)	審査委員が特に評価する取組を行っている	○人の心を動かす農福連携等に関するストーリーがあり、企業や国民が応援したいと思わせるような取組を行っている